**平和統一運動次世代リーダー育成のための**

**「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門及びエッセイ応募原稿フォーマット**

**■「私から始まる平和統一大賞」とは**

　朝鮮戦争によって分断された朝鮮半島と在日コリアン。先人たちが夢にまで見た「統一」はいつ来るのでしょうか？　最近の国家情勢で考えると問題があまりにも大きく見えて、何から手を付けて良いのか、わからなくなってしまうことはありませんか。しかし、皆さんが「心の壁」を乗り越えた小さな体験が、何かしら在日同胞の和合に役に立った事はなかったでしょうか？

　’為に生きる’神様主義の真の愛を根本精神として国籍と思想、組織を超越して、国内外の韓民族の和合と統一の実現を目指す平和統一聯合は、この度、皆様の「心の壁」を乗り越えた経験を、同世代や後に続いていく世代の力とするために、創設20周年記念企画としてこの賞を創設いたしました。

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | 「私から始まる平和統一大賞」青年スピーチ部門、会員及び一般部門　エッセイ募集 |
| 募集テーマ | 「私の心の壁を越えて始まった平和統一の経験」  ・自分の置かれている環境でぶつかった「心の壁」、なぜそれが「壁」であったか、どのようにして乗り越えたか、そのきっかけや周りからの言葉、勉強になったと思う自分の経験、そしてそれが在日同胞の和合、朝鮮半島の平和統一にどのように発展していく可能性があるかをスピーチ、または記述。 |
| 応募条件 | 平和統一聯合に所属している会員、担当者。または左記から紹介を受けた方。 |
| 募集期間 | 青年スピーチ部門：2024年６月16日（日）まで地方予選  会員及び一般部門　エッセイ募集：  2024年４月１日（月）～2024年６月17日（月） |
| スピーチ  原稿規程 | 【青年スピーチ部門】　５分以上７分以内（制限時間を超過した場合は減点）。  ※パワーポイント使用可。  【会員及び一般部門　エッセイ募集】800字以上3000字以内、１人１点。  ※両部門とも主となる言語を日本語で行うこと。部分的に韓国・朝鮮語、または他国の言語を使用しても良いが、日本語の意味を付け加えること。 |
| 応募方法 | Wordファイルのまま、応募フォームよりご応募ください。※ 青年スピーチ部門に応募の方も、同様に原稿を提出してください。 郵送、FAXでのご応募はご遠慮いただいております。 |
| 発表 | 2024年6月下旬　ホームページにて公開  入賞者には、メールまたはお電話にて直接ご連絡をさしあげます。  青年スピーチ部門の大賞受賞者は、７月４日東京都内の記念行事でスピーチします。その交通費は本部負担。 |

**題名：　「~心と心が繋がる時~　愛は必ず届くと信じて」**

**お名前：　　小松　由希子**

(下記より本文をご記入ください)

~心と心が繋がる時~　愛は必ず届くと信じて  
  
私は約30年前に、愛媛松山で在日三世の方と出会いました。祖父母の代に日本に来られた方で、祖父母の方は日本で大変苦労され恨もあるようでした。その方の旧姓は文総裁の日本名と同じ江本さんでした。今は京都に嫁がれ金海さんとなりました。30年前その方の愛媛今治の実家を訪ねた時に族譜を見せて下さり、その分厚さに驚いた事を覚えています。その中にその方の名前もありました。韓国名で李氏でした。本当に血統を重んじる民族なんだなと実感した瞬間でした。その方が沢山の韓国の歴史の本などを送って来られたり、ある時は沢山の食器、沢山の洋服などが段ボールで届いたり、私にお世話になったといつも色々な贈り物、ギフトが注文できる物を送って来て下さり、今も連絡を取り合う関係が続いています。私が1くらいしたと思う事に対して10くらいと受け取って下さるといっても過言ではありません。韓国の方の情の深さをその方を通して知ることが出来ました。数十年直接会っていませんが、不思議とそのようにも感じず、何か通じる世界がある方です。親の面倒、お姉さんのお世話、嫁いでからも舅、姑さんの面倒をずっと見て来られ、様々な苦労をされて来た方です。今も親族関係の事で悩みかあり、その事で長時間電話で話す事もあります。僑胞の方と長年そのような関係でいることが出来る事が幸せな事だと改めて実感しています。  
また、20代後半から30代にかけて、ハンガリーで過ごした期間がありました。ハンガリー人はもちろん、ドイツ人、イギリス人、オーストリア人、韓国人、ペルー人と様々な国籍の方との出会いがありました。当初英語もほとんど話せず、ハンガリー語は挨拶程度が精一杯でした。言葉の壁、民族、国の壁を感じる事もありましたが、それでも相手と通じたい、理解したいという強い思いがあれば、言葉の壁を越えて国の壁を越えて通じる事が出来ると体験を通して確信しました。  
また、1987年初めて韓国の地を踏みました。釜山の教会を訪ねた時に、韓国語で語られる教会長さんが語られている内容を通訳もなく聞きながら、内容はわかりませんでしたが心で感じるものがあり、涙がとめどなく流れた体験がありました。それから5年後父が亡くなる１週間前に「釜山に行くのか？」と突然に父が語り始めた事がありました。韓国と日本は近くて遠い国と言われますが、やはり深い繋がりがあることを感じました。様々な体験を通しながら、言葉は通じなくても、人と人は通じる心があり、お互いに見えない歴史的な繋がりの中での一つ一つの出会いがあることを実感しました。ハンガリー人もアジアから騎馬民族として移動し、ハンガリーとフィンランドに定着したと聞いています。そのハンガリーでも家族付き合いするくらい心が通じたご家族がいました。私がハンガリーを離れる時にはお家に呼んで下さり、奥さんは沢山の刺繍の作品をプレゼントして下さりました。奥様が数年前に亡くなった時には、わざわざ連絡を下さり、私にメッセージを送って欲しいとご主人に依頼された事がありました。二人の娘さんも「YUKIKO、YUKIKO」と慕ってくれ、最後は家族のミニアルバムを私に作り持たせてくれました。どんなに遠く離れていても心と心は通じること、生きている人生の中で、相手を思いやる心、愛する心は時空を越えて繋がる事を改めて実感致します。  
文総裁、韓総裁は人類が、神様を父母とする兄弟姉妹だとおっしゃり、祖父母の年代の人は自分の祖父母のように、父母の年代の方は自分の父母のように愛する事を教えて下さいました。私自身も日々の生活の中でそのように他の人を見つめ愛したいと思って意識し生活ています。どんな人に対しても家族と思うことで、近くなり心の壁がなくなる事を感じます。  
今回の青年スピーチ北海道大会を通して、南北統一に対して、私自身が客観的に見つめていた事に気付きました。応援スピーチをされた婦人が「もし日本が東日本と西日本に分断されていたら~」と語られる言葉を聞きながら、本当に切実な心になりました。もっと身近にもし北海道が南北に別れ、愛する家族と会う事が出来ないとすればどれ程辛く、どれ程切実になるだろうと考えました。東洋のエルサレムと言われた平壌。文総裁御夫妻の故郷も北の定州と安州です。かつては北の地にも神様とイエス様を信じ愛する多くの方々がいたことを思えば、例え今神様を否定する共産主義の国となっていたとしても心の中に神様を信じ、イエス様を慕って生きる人々もいるのではないか、また北の方々の意識のない中でも血の中に流れているものがあるのではないかと感じました。心から平和統一を願う人々がいるのではないかと~私達がそれを信じて、必ず平和統一は出来ると信じる心が必要であり、その心が強く大きくなり、全世界から北の人々を解放したい、愛したいという愛の心が北朝鮮に充満する時に、そこから溢れる愛の波が38度線を越え、真の愛による南北統一の扉が必ず開かれると確信致します。北と南が一つとなり、全世界が平和な世界となり、平和の鐘が全世界に鳴り響き、歓喜の歌声でこの地球星が満ち溢れる一日を目指して、ここから新たな一歩を踏み出して行きたいと思います。  
言葉が通じなくても~と思う一方で、言葉が通じる事の重要性も感じます。今私自身、今ハングルを学び、少しずつ言葉がわかり、文化がわかり、言葉と心情が通じる事の喜び、理解する事の喜びを感じています。北と南が同じ言葉、同じ民族である事は大きな希望であり、必ず南北統一は成されなければならない神様の願いであり人類の悲願であると実感します。私が独身時代に共に寮生活をし、ハンガリーでも共に活動したことのある友人は今韓国の方と祝福結婚をし、ご自分は一人っ子でしたが3人のお子さんに恵まれ韓国アジュマになり幸せに暮らしています。私の娘が韓国に留学した時にお正月を寮で過ごすのは可哀想だと言ってくれ、娘を家に招いてお正月を過ごさせてくれました。自分の娘のように愛して下さり、自宅近くの柳寛順の郷に娘を連れていってくれました。私が柳寛大烈士をとても敬愛している事を知って「由希子さんも来たいでしょう？」と言ってくれました。1919年3.1独立運動は、札幌農学校第２期生の内村鑑三先生の再臨運動が出発点になりました。今全世界的になり、韓総裁が主管して行われている南北統一祈願をかけたpeaceロードも北海道から出発しました。文総裁は北海道は道(どう)であり、韓国であるとも言われました。そして巨文島で、「札幌に鍵がある」とおっしゃいました。北朝鮮で12年間投入された佐々木裕一FPU北海道会長が札幌にいらっしゃる事も偶然ではないと実感致します。青年達が南北統一に意識と関心を持ち北海道札幌でスピーチとエッセイの発表を10人の青年が行いました。南常任顧問が10人を臨津閣に招待したい！とおっしゃった事を通して、文総裁が若き青年達の姿に感動して下さった事を実感しました。韓総裁は北海道から九州まで春風で一掃する事を願われました。今南北統一の波が北海道札幌から起こり青年達の熱い心情と共に愛の津波となって全国全世界を駆け巡り、天の父母様と文総裁、韓総裁の悲願、人類の悲願でである南北統一が成就し、柳寛順烈士が満面の笑みで大きな太極旗を振る姿が見えるようです。韓総裁が語られているように、今こそ私達は胸のうちから一人一人の太極旗を取り出して大きく振りながら南北統一を成就する時だと確信致します。南北統一は間近です。ウリヌンハナダ！